

第2表(中)

学校名 清瀬市立清瀬第四中学校

2 指導の重点

(1) 各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動

ア 各教科

- ①「主体的・対話的で深い学び」のある授業実践を目指し、各教科において習得すべき「知識・技能」を明確にし、協働的な学びが出来るよう、「OKJ=教えて考えさせる」指導方法の習得及び ICT 機器の対話ツールとしての活用に取り組む。
- ②生徒が深い理解を伴った習得が出来るよう、毎時間の授業で、「目標の提示」、「見通しをもたせる」、「振り返り」を確実に行う。
- ③どの生徒に対しても「わかる」「面白い」を実感させるとともに、教科固有の魅力や奥深さに触れさせることによって、授業好き・教科好きな生徒を育成する。
- ④理解が不十分な生徒や特別な配慮を要する生徒・不登校生徒等への対応において、何らかの手立てや ICT 機器の効果的な活用等を行い、個別最適な学習環境を構築する。
- ⑤生徒にとって、安全・安心かつ清潔で居心地が良い学習環境の中で生徒一人一人が個性的な存在として尊重され、教師と生徒との間に強い信頼関係がある学校風土を醸成する。
- ⑥家庭科では栄養士とのチームティーチングにより食育の授業を実施し、心身の健康を図るとともに、マナー等の社会性や食に対する感謝の心を育てる。
- ⑦保健体育では、救急救命講習会やがん教育の授業を関係機関と連携して実施し、安全教育・健康教育の充実を図るとともに全国体力テストの結果を分析し体力の向上を図る。

イ 道徳科

- ①道徳教育の要となる「考え、議論する」道徳科の授業において、生徒の内面に迫る授業を通して、道徳的心情を豊かにするとともに、道徳的判断力・道徳的实践力を育てる。
- ②問題解決的な授業、道徳的行為に関する体験的な学習など多様な学習方法を取り入れ、生徒が困難な問題に主体的に対処できるよう実効的な力を育成する。

ウ 総合的な学習の時間

- ①地域貢献活動や感謝の心を体現できる活動及び SDGs 学習を柱とし、3年間の系統性をもたせた学習を実践する。
- ②各種活動や SDGs 学習を通して探求的な見方・考え方を働かせ、自分で課題を立て、情報を収集・活用し、まとめ・表現する力を養う。
- ③よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育むとともに、認知能力・非認知能力の育成を図る。

エ 特別活動

- ①運動会や合唱コンクールにおいて、生徒の主体的な取組を引き出し、望ましい人間関係を形成しながら、集団への所属感・連帯感を深める。
- ②生徒会・委員会活動(部活動)において、異年齢生徒の協働を通して、居心地の良い清潔な学校づくりを進める取組や自己決定の場を創出し、生徒の自己指導能力を育てる。